

## 実践例「学習指導の充実・深化」

### 「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」

#### I 学校名 北見市立上仁頃小学校

#### II 研究の概要

##### 1 学校教育目標

「かしこく やさしく たくましく

みんな生き生き輝いて よろこびいっぱい 夢いっぱい」

##### 2 経営の姿勢

- ① 地域や学校の特性を生かしながら、豊かな心を持ち「生きる力」を培う教育課程の編成・実施・評価・改善を図る。
- ② 学校生活の中で教師と児童の人間的なふれあいを重視した指導や支援をすることによって、一人ひとりの児童のよさや持ち味を伸ばす。

##### 3 年度の重点

- ① 小規模校・少人数指導の特色を最大限に生かし、児童の成長を応援し、確かな学力・豊かな心や健やかな体を育てる。
- ② 地域・家庭との連携を深め、地域と共にある信頼に応える学校づくりを推進する。
- ③ 「チーム上仁頃（職員全体・一体）」を常に意識し、学校力の向上を図る。

##### 4 研究主題

『言葉で伝え合う力を身に付け、自ら進んで言語活動に取り組む子の育成』

～「話す力・聞く力・書く力」を育てる場の設定を工夫して～

##### 5 研究仮説

- ① 主体的に学ぶ心を育む手立てを工夫することにより、学びの必要性を高め、「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」という意欲を持つようになるだろう。
- ② 「話す力・聞く力」を培う指導を工夫することにより、自信を持って自分の言葉で表現することができるであろう。
- ③ 「書く力」を高める指導を工夫することにより、自分の思いをより詳しく表現することができるだろう。

#### III 実践例

##### 1 校内研究授業（授業交流）の実践より

- ① 単元名 3年生国語 言葉の使い方を考えよう「気持ちを伝える話し方、聞き方」  
4年生国語 課題にそって報告文を書こう「見学したことを報告しよう」

##### ② 授業のねらい

3年生は「相手に自分の気持ちが伝わるように抑揚をつけて話したり、速さや強さを変えて話したりすると気持ちが伝わりやすい」ことに気づき、実践しようとする態度を育てることを目標としている。

4年生では「自分たちの見学したことを、相手に理解してもらえるように報告文を作り、発表しようとする態度を育てる」ことを目標としている。

社会見学を通して学んだことを伝えるために、相手を意識した発表の仕方について主体的に学習を進めるとともに、相手の思いを受け止めしっかりと聞き取ろうとする態度も身につけさせたい。

③ 本時について（展開）

ア 目標3年生：4年生の報告を聞き、相手の伝えたいことを正確に聞き取ることができる。

4年生：自分の一番伝えたいことがわかるように報告することができる。

イ 本時の流れ（3年生 本時3/4時 4年生 本時10/11時）

教師の支援	学習活動 3年生	段階	学習活動 4年生	教師の支援
本時の課題の提示  一番伝えたいことは何かを聞きとろう。	あいさつ 本時の学習の確認 「4年生の報告を聞く」	つかむ	あいさつ 学習の準備  自分の利用する写真などを黒板に貼る  自分の一番伝えたいことが伝えられるように報告しよう。	報告文を黒板にはるよう指示
プリントの配布と記入のし方を確認する  必要だと思う事柄はメモさせる。 4年生の伝えたいことを聞き取れているか。	聞き取り用のプリントを配る  発表者ごとに、プリントに記入する	ふかめる	自分の報告する内容を確認し、準備ができたから始める  それぞれが順番に発表する	発表のし方の確認をする  相手を意識し発表しているか 声の大きさ・速さなど
4年生の発表の内容を聞き取ることができたか確認する	記入した内容を発表する	まとめる	3年生の発表と、自分が伝えなかった内容が一致しているか確認しながら聞く  自分の一番伝えなかった内容を3年生に伝える	4年生の発表で3年生が聞き取れる内容であるかを確認しておく
今日の感想をノートに書かせる  次時の予告	話を聞く時のメモの取り方や、聞くポイントを確認する  あいさつ	ひろげる	自分の発表をふり返る 上手くできた点、改善すべき点を見つけメモする  発表する  あいさつ	次時の予告

#### ④ 成果と課題

##### ア 教科横断的な学習活動

国語科の単元構成を考えるにあたり、社会科の見学学習を念頭に置き構成した。3・4年が同じ見学学習を行った後に国語科の学習として「書くこと（報告文の作成）」「聞くこと」「話すこと」につなげたことにより、児童の主体的な学習が形成された。



##### イ 目的意識

社会見学、国語科の学習ともねらいがある。「社会見学で学んだことを報告文としてまとめる」「相手の伝えたいことを正確に聞き取るにはどうしたらよいのか」「自分の伝えたいことを相手に伝えるにはどうしたらよいのか」という目的意識を持たせたことが、児童の主体的な学習につながったものとする。語彙不足のために自分の考えや思いを十分に表現できない児童に対し、これまでも継続してきた日記や読書、暗唱活動とともに、話す・聞く・書く・読む活動を意図的に行っていくことが課題である。



## IV その他

児童の主体的な学びを育てる手立てとして、次の活動を教育課程に位置づけて実践している。

### 1 近隣校との交流

場に応じた態度で自分の思いを伝えることは容易ではない。小規模・複式校での課題でもある。中学校へ進学した時には同じ学校となる近隣の学校の協力のもと、年間複数回の交流学習を教育課程に位置づけて実践している。日常とは異なる環境で学習し生活する中で、自分から積極的に交流しようとする意識と支援が大切である。



### 2 修学旅行事前交流

学校規模の関係で、修学旅行は市内の小規模校と合同で2年に1度の実施としている。修学旅行当日のみの活動ではなく、事前・事後の学習活動として児童の主体的な活動を支援している。修学旅行を通して、児童の主体的な活動を仕組むとともに、目的意識を大切にしている。



### 3 詩の暗唱活動

毎週金曜日の朝に「詩の暗唱活動」を行っている。全校児童に詩の暗唱用のファイルを配布し、個人のペースで練習（暗唱）した詩を教師の前で発表している。語彙の形成にも活用している。児童は主体的に活動し、多くの詩を暗唱できたことが励みにもなっている。

